



教育センター・育成センター所報

2008 年 3 月号



コシオガマ

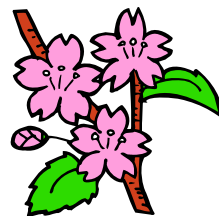
GALILEI

新しい教育 柏崎からの発信

インターネット版は
柏崎市教育情報支援シス
テムを検索し、トップ画面の
右上「GALILEI」をクリック
してください。

柏崎市立教育センター
柏崎市青少年育成センター

3月号 CONTENTS



○ 今月の巻頭言 「活用できてこそ」 教育センター運営委員(柏崎小学校長) 山本 甚一	1
○ 19 年度教育センター事業運営の総括と展望	2
○ 20 年度教育センター事業運営の基本方針	11
○ 1 年間お世話になりました	12
○ 教育センターたより	
● アクセス(教育研究班・情報教育)	14
筑波大附小研報告・キャリア学習ノート登録・最新情報をお知らせするRSS・IE7の自動更新	
● プロジェクト K(科学技術教育班)	19
事業報告(中学校2分野・生物の細胞と殖え方) 細胞分裂がよく見える!	
● 心の窓(教育相談班)	20
教育相談班の本年度の活動・ワンポイント講座・3月の予定	
● プラネット(視聴覚ライブラリー)	23
今年度の利用状況・新着教材の紹介	
○ 青少年育成センター通信	25
3月の予定・健全育成大集会報告と宣言文・ノーテレビノーゲーム挑戦結果の概要	
○ センター点描	31
○ 所員随想つれづれ	32
「雨ニモマケズ」 科学技術教育班研究員 植木 厚夫 「知恵＝知識×意欲+経験」 教育研究班指導主事 中野 博幸	
○ 教育センター3月の予定	34
○ 2月の教育センター利用状況	



○ 「・・・ずすと小鳥とそれからわたし、みんなちがってみんないい」これは、山口県で大正から昭和にかけて活躍し、26 歳という若さで亡くなって後に天才童謡詩人といわれた金子みすゞの詩の一節です。富国強兵の政策で自由が抑圧された時代背景の中で、個の開放を求めて人間性、命、人権の大切さを素朴な言葉でも強く訴えた数多くの詩は、読む人の心を揺さぶります。

○ 先日「金子みすゞの罪」と題した東学大児島邦宏教授の文が目にとまりました。これは、個性尊重の教育の掛け声の下「みんなちがってみんないい」という一節に酔いしれて、そこから一步も出ようとしない思考停止の教師がいかに多いか警鐘を鳴らしている文です。その結果、子どものわがままを許したり、社会性の訓練を行わなかったりして集団や学級のまとまりを失ってしまうという図式が見られるのです。

○ これでは教育とは言えませんし、このような環境で育った子どもは、他への思いやり



若葉抄

や人の痛みなど分かる訳がなく、人とのつながりが大切な社会生活に適応できなくなります。重要なことは、先ずみんなが自分の意見や考えをしっかりと持つ。これを出発点として議論し、よりよい結論を導き出すことなのです。個性重視だけに留まり、共同社会への論議の発展という視点が欠落した教育ではいけないのです。「みんなちがってみんないい」「それで終わりじゃいけないよ」なのです。

○ 教師は単に教科をうまく教えることができればよいと言うものではありません。子どもの能力をいかに伸ばしていくか、そして社会に協調して生きる人間をいかにして育成するかということが大切な役目なのです。教育は極めて奥の深い、そして意義のある仕事ですね。

○ よりよい教育を目指し、自己研鑽の場や子どもの健全育成のために、本年度も教育・育成両センターをご活用いただき誠にありがとうございました。(種)

活 用 で き て こ そ

教育センター運営委員

柏崎小学校長 山本 甚一



新採用の学校(羽茂小学校)では、次年度(昭和46年)の理科研究発表会に向けて取組が進められていた。「意欲を誘発する発問」が研究テーマだったようだ。

佐渡の岩石園を作るべく岩石を集めに回った。隣の羽茂高校の地学の先生を講師に、佐渡中を回った。地域が違えば岩石も異なるというほど、岩石の種類は豊富であった。「流紋岩!凝灰岩!似ているね!」これまでに習った知識では同定できない実践的な学びが沢山あった。教科書や小さな岩石標本とは違い、直接触れ叩き割る体験は大きな学びであり、露頭の広がりを目の当たりにすることは大きな感動だった。

日時計制作を任された。真北、真南はどこか。緯度、経度は何度か。地図帳のように子午線は地表に書き込まれていない。方位磁針は真北を指し示さない。理科や物理、地学で習ってきたが、知識を全然使えない。今思えば、南北は、磁北と偏角により決めたのだろうか、北極星とのずれによったのか、太陽の南中方位により決めたのだろうか、全く覚えていない。なんとか作ったが、「日時計」だったのか今でも分からない(現在は、除去されているので、安心して語れる)。

「てんびん」の授業に備えて、一人一人の子どもに「天秤ばかり」を持たせようと、不足分を作ることにした。備品の「上皿天秤ばかり」に似せて、角材で、図1のような試作品(本人は「天秤ばかり」とばかり思っていたが・・・)を作った。

同じ重さの分銅を載せる。「えっ!釣り合わない!」分銅を、皿の同じ位置に載せたり天秤の寸法を測り直したり支点の位置や高さを変えたりして何回も試みるが、釣り合わない。

備品の「上皿天秤ばかり」を調べる。皿の動き方が違う(図3)。皿を支える支柱が「鉛直」に動く仕組みになっているのではないか。知らなかった。

試作品では、皿を支える支柱は、天秤と直角のまま傾く(図2)。それにつれ、左側では分銅と支点までの水平距離が長くなり、重心も支点から遠く。右側では、分銅と支点までの水平距離が短くなり、重心も支点に近づく。その結果、左に傾ける働きが強くなり、傾いたままの状態になる。

上皿天秤ばかりが重さを量れる仕組みや、製作するてんびんは糸などで吊す方式がよいことを実感した。

図1 試作品

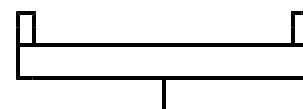


図2 試作品

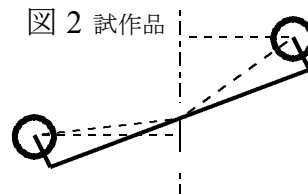
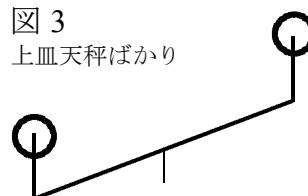


図3
上皿天秤ばかり



OECD生徒の学習到達度調査(PISA調査)は、「生徒がもっている知識や技能を実生活のさまざまな場所で直面する課題にどの程度活用できるか」を測定する。PISA 2006 調査において、この知識・技能を実際の場面で活用する力に課題があるという結果については周知のとおりである。全国学力・学習状況調査等結果においても同じ結果が報じられている。

一方、改訂学習指導要領においては、知識・技能を活用する学習(観察・実験やレポートの作成、論述等)を行う時間の充実を図るため、授業時数を増加する。

知識や技能を活用することは、知識・技能の習熟、会得に止まらない。新たな、解決しなければならない課題を生じさせ、その解決活動を通して、新たな知識・技能や思考力、判断力をも養う。何よりも、成就感や時には感動を伴う。

知識・技能習得過程における深い学びを基盤に、知識・技能を活用する学習にも改善を加え、ダイナミックに展開したいものである。

19年度事業の総括と展望(全体)

柏崎市立教育センター

1 はじめに

将来の住みよい地球と人々の平安な生活を目指して様々な教育改革が行われている我が国では、中央教育審議会の教育課程部会がこれまでのいわゆる“ゆとり路線”を変更して、30年ぶりに学習指導要領の授業時数を増やす答申を出した。これは学力の国際調査や全国調査の結果を踏まえて、特に思考力や判断力などの育成を中心とした学力の向上を狙ったものである。

このような中であって、当教育センターは教職員研修と教育相談を事業運営の2本柱に据え、社会の要請に応える教職員の指導力の向上と、学校現場の要請に応える研修や教育相談等の事業を行ってきた。しかし、7月の中越沖地震のため事業の多くが中止となり、参加・利用総数は前年よりかなり減少した。教育相談では震災時の心のケア相談数を含めると来所相談数は前年度とほぼ同じであるが、相談内容が複雑化してその対応に苦慮したところである。

例年行っていた事業運営に対する全教職員のアンケート調査は、震災で大幅な事業変更を余儀なくされたために実施しなかった。しかし、一昨年の数値評価及び昨年の記述評価を参考にしながら今年度事業の総括を行って課題を明らかにし、今後の事業の方向を探りたい。

2 事業全体の参加・利用数は前年比2割以上減の見込み(全般)

○ 19年度教育センター事業の参加利用総数は1月末現在約1万6千件で、3月末までも昨年度の実績(約2万3千件)に及ばない1万8千件程度と見込まれる。これは、年間のおよそ半数近くを予定していた7・8月の研修講座や各種事業が中越沖地震のため実施できず、時期を遅らせて若干の事業は復活したものの総数としては大幅な減となったものであり、止むを得ない状況であったと考える。

○ 教職員研修の参加総数は、各教科領域の専門講座、情報教育研修講座、理科研修講座を合わせて約90講座におよそ1,700人が受講した。また、要請があつて学校等へ出向いて行った研修は理科・情報教育を中心に110回約1,050人が参加し、合わせて前年より350人少ない2,750人が研修を受けた。これは、郡市小中学校全教職員が一人平均4回受講したことになる。

○ 教育相談班のカウンセリングルームにおける新規の来室相談は1月末で180人を超え、年度末には前年度の209人を超えるものと予想される。継続相談は前年度より若干少ない600件程度と考えられる。その中で軽度発達障がいに関する相談が最も多く、学級不適應、不登校などの相談も多い。しかも相談事例の重症化が年々進んできている。実際にはこれを上回る多くの相談希望が寄せられているが、現在の体制では限度一杯で数週間待ちの状態である。

3 研修意識の高揚はまず管理職から(教育研究班)

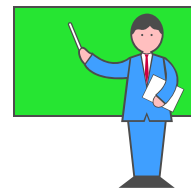
○ 研修意識の格差が拡大

要請訪問を除いた教育センターにおける研修講座には一人平均2.5回の参加である。多い人は7回も参加している反面、1年間に1回も参加しなかった教員が約1/4も見られることは大きな問題である。参加者がやや固定化する傾向が見られるとともに、その背景には研修意識の格差が大きくなったのではないだろうか。実際、柏刈学校教育研究会とタイアップしている研修が多く、全教員が2つの部会に所属しているので最小限2回の研修に参加できるようになっている。いくら多忙とはいえ参加ゼロでは教師としての意識が問われ、管理職の指導を期待したいところである。

国語教育の大家・大村はま先生の「学ぶ者のみ教えることができる」の意味を深く受け止めなければならない。

○ 地元をはじめ専門家の話を

読書指導ではソフィアセンターやボランティアグループの読み聞かせ、博物館や夢の森公園のスタッフにお願いする自然観察会など市内外の専門家を講師とする意義のある研修講座を実施する。



○ 参加しやすい研修会の設定

多忙な学校現場でなるべく研修会に参加しやすいように、ほとんどの研修会は授業に影響の少ない午後3時から開始したり、長期休業を中心に設定したりしている。特に研修日の設定に当たっては全市的な行事をなるべく避けるようにしているが、限られた期間の中で多少の重複は止むを得ないとする。なお、個人への案内は全て個人メールアドレスを通して行っているが、さらにこのシステムの活用を図っていただきたい。

○ 希望が多い特別支援関係の研修講座

今年度行った研修講座の中で、各教科等の授業作りのための講座は参加者が少ないが、教育相談や道徳講座などの心の教育に関する研修には大勢の参加が見られ、1講座で50人を超えたこともある。これは児童生徒の対人関係の指導に悩んだり、軽度発達障がいなど特別支援を要する子どもの指導で悩んだりする学校現場の困難な状況を反映しているものではないか。

○ 若手教員の計画的な研修

新潟県では4・50代の教員数が2/3を占め、若手教員が少ない変則的な年齢構成になっている。そのために、団塊の世代の教員が大勢退職する10年ほど後を見据えて若手教員の育成が重要な課題となっている。長岡では「錬成塾」で6人の専任嘱託指導主事が大勢の若手育成に組織的に取り組んでいる。当センターでは、算数数学の指導方法について若手教員が取り組んでいるが、これをもっと各教科や学級経営などに広げ、計画的に若手教員の育成に取り組む必要がある。専任嘱託指導主事の配置を望むところであるが、まずは退職校長会などの人材を派遣してもらうことなどから検討していきたい。

4 専門的な対応ができる人的体制強化を(教育相談班)

○ カウンセリングルーム

今年度のカウンセリングは中越沖地震の心のケアの対応という特例の事業が行われたが、一般のカウンセリングでは、相談事例が重症化していることが特徴である。相談件数はほぼ前年に同じであるけれども相談内容の複雑さ、子どものおかれた厳しい状況、家庭の閉塞感など問題解決には多大な時間とエネルギーを要する相談事例が多い。また、カウンセリングやSSTの希望は大変多く予約待ちをしている状態なので、市子ども課育児支援係をはじめ内外の専門機関と連携しながら教育相談を進めるとともに、専門的な資質を持つ相談職員の配置増を強く望むところである。



○ ふれあいルーム(適応指導教室)

中学生を中心とするふれあいルームへの通級は、ここ数年20人前後の登録数で推移している。通級している子どもの理由も単なる不登校ではなく、困難な家庭状況や本人の発達障がいな

ど複雑な原因で、カウンセリングルームと連携して指導に当たっているが、わずかなきっかけで指導の成果が逆戻りすることがあり苦慮している。ルームでは個人ごとの学習活動、仲間との遊びや作業、遠足などの特別活動を通して自立の心を身につけ、部分的にせよ学校復帰する児童生徒が半数くらい見られる。また、中3生徒の高校受験に対応する個別指導も必要なので、カウンセラーや家庭・学校と連携しながら指導の充実を図っていきたい。

○ 学校訪問相談

訪問相談に対する学校からの要望に応じて、これまでの定期訪問を大幅に削減し、相談事例に伴う必要に応じた訪問相談を充実する。すなわち、カウンセリングルームへの相談者やふれあいルームの通級生に関わるケースワークを中心として、必要に応じて学校に出向いて相談を行うことである。したがって、教育相談班の中ではカウンセリングルームやふれあいルームと常に連絡をとり、必要に応じて適応指導や個別面談を行う。また、元気館や児童相談所と連携をとりながらケースカンファレンスのコーディネータとしての役割も果たすようにする。

○ SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)やピアサポート活動

昨年来大きな問題となったいじめによる自殺問題の根本は、対人関係調整能力の不足にあると考えられる。教育相談班では、この対人関係調整能力の向上を小グループで「いろいろ体験グループ」(SST)として訓練したり、同年代の仲間の支え合いを強化するピアサポート活動を推進したりして成果を挙げているので、相談班の全員体制で指導の充実に努める。

5 身近な自然に触れる理科教育の推進を(科学技術教育班)

○ 地層などの野外観察は必ず行う

学習指導要領では小中学校とも地学分野においては、単元のはじめに地層の観察を行うことと明示されている。ところが実際に授業で地層の野外観察を行っている学校は少ない。理由は指導の時間が足りない、近くに適切な観察地がない、さらにはどう指導したらよいか分からないなど様々であるが、本物の観察なしには科学的な見方や考え方を養うのは困難である。生物教材にしても同様である。科学技術教育班では、特に地層の観察の適地、指導の仕方などについて研修会を行ったり個別に支援もしたりするので、ぜひとも現地での観察学習を実施してもらいたい。ただ、単元の展開時期が重なると支援の日程調整が困難になるので変更をお願いしなければならないことがある。

○ 科学の祭典など科学振興事業に理解を

今年度は中越沖地震のため、7・8月に特に研究の必要な科学研究発表会と科学作品展を中止にせざるを得なかった。しかし、新潟工科大学と協力して実施した2回の科学の祭典や植物、昆虫、天体などの自然観察会には大勢の親子連れが訪れ、自然や科学のすばらしさに驚きかつ楽しんでいる姿が多く見られた。理科離れを防ぎ、地域の青少年の科学の芽を育むために、今後とも関係団体と協力しながら積極的に推進していきたい。



6 利便性が向上したライブラリーの活用を(視聴覚ライブラリー)

○ 教材の検索と申込み

今年度はフィルム・ビデオ等教材の利用が減少したが視聴覚機材の貸し出しは昨年同様 600 件くらいである。ライブラリーではパソコンによる貸出画面を常に表示しているので、教材の申込みは電話受付となっているが素早い対応が可能である。教育情報支援システム及び教育センターコンテンツサーバの両方に教材目録をデータベースとして載せているので、必要なキーワードから検索してぜひ活用願いたい。

○ 教材の新規購入

当ライブラリーの教材貸出は、学校、PTA、コミセンなどの団体専用であり(団体上映権がある)、ソフィアセンターの個人用貸出のビデオ等とは対象を異にしている。したがって、幼児教育、学校教育、社会教育における学習・啓発用の教育教材が中心となっている。最近の財政難で新規購入教材が激減しているが、これらを補充することが当面の課題である。

7 指導・校務の情報化のより推進を(情報教育)

○ 校務の情報化は教務主任から

学校の情報化推進はその学校の教務主任によるところが大きい。パソコンはじめ情報機器の利活用は学校教育全般に及んでいるが、その利活用が個人レベルで終わってしまうと効果は半減する。したがって、学校の教育活動を直接管理している教務主任が、学校の情報化システムの構築を理解し管理していく必要がある。そうすることによってシステムの共有性・継続性が保たれ、教員の異動による活用の停滞が解消される。既に学校研の学校事務研究部では先進的に取り組んで成果を挙げているが、教務主任も組織をつくって校務の情報化を共同で検討する必要がある。センターの教育情報主事は大いに支援の労を惜しまない。

○ 教職員の個人メールアドレスの活用

教職員個人メールアドレスが整備され、本年度からメールによる研修講座案内、e-GALILEIの定期配信などの本格運用を始めた。効率的で大変便利という声が多いが、メールシステムに慣れない教職員も多く十分な利活用には今一步である。情報研修講座やPRでこのシステムの周知を図りさらに活用を推進していきたい。

○ 教育情報支援システムの運営・所報「ガリレイ」の発行と配信

教育情報支援システムでは、各教科等の新しい指導教材や地域に密着した教育情報、研修講座のテキスト等の発信を行っている。また、所報「ガリレイ」は、教育センター・育成センターの新しい情報を紙面及びインターネットの両面から発信していきたい。



各班の総括と展望

◆ 教育研究班(情報教育を含む) ◆

ア 専門研修

今年度の専門研修の特徴は次の点にある。

- ・ 参加型研修会:参加者が主体的に研修を受けられるように運営形態を工夫・改善した。
- ・ 連携共催型研修会:学校教育研究会を中心に他の組織との連携により研修会を実施した。
- ・ 今日的課題を受けた研修会:教員評価, 総合, 特別支援教育, 小学校英語, 学校安全など教育界の課題に対応した。
- ・ 特色ある講師陣:市内・県内の身近ですばらしい実践者など多様な講師を招き, 内容のある研修会を実施した。
- ・ その他の特徴として, 地域性を生かす, 長期休業の有効活用, 情報教育の充実が上げられる。

今年度の実施講座数は 54 講座で, 1444 名の参加者があった。中越沖地震のために, 夏期休業中を中心に 21 講座を中止せざるを得なかった。しかし, 講師の方々のご好意により, いくつかの研修講座は日程を変更して実施することができた。

来年度は, 地震のために実施できなかった講座も含め, 柏崎市刈羽郡学校教育研究会の各部会と連携を取りながら, 研修内容と研修会運営方法について検討し, より一層の質的な向上を図っていく。

今年度も昨年度に引き続き, 教職員メールを活用し, 研修会の案内や感想, 柏崎市立教育センターメールマガジン e-GALLILEI などを送付する取組を行った。メールでの欠席連絡が増えるなど, 少しずつではあるが教職員によるメール活用が進んできた様子が見られた。

「柏崎の教育を語る会」

平成 19 年 1 月 27 日(土) PM2:00~5:00

中越沖地震のために今年度は中止した。

ウ 調査研究

柏崎市における教育の情報化推進プランの作成を行った。(推進委員 8 名, 小 5 名:中 3 名)

市内全小中学校の教員を対象に, アンケート調査を実施し, 教員の意識や情報機器の活用状況などについて調査を行った。それらをもとに教育の情報化推進に向けての課題とねらいを明らかにし, 平成 20 年から 5 年間にわたるプランの作成を行った。

他市町村において教職員用の公用 PC の導入が推進される中で, 柏崎市においても長期的な視野に立った推進計画を作成することは, 教育の情報化の推進に寄与するものと期待できる。平成 20 年度は, 本プランをもとに実務的な検討を進めたいと考えている。

エ 教科研修員

年間5回の研修会を通して, 各研修員が自己の課題を明らかにする授業実践の研修を進め, 成果を教育論文に応募した。

2名の研修員が積極的に実践研修を進めた。教員会と連携しながら, 個々の研修員の力量を伸ばす機会にすることができた。授業研究を行い, 市教委論文に応募した。

オ 柏崎市教育情報支援システム運用事業

今年度、重点的に活動した項目は大きく分けて以下の3点である。

(1)「教育の情報化推進プラン」の作成

(2)「柏崎アクションプラン-情報教育プラン-」の推進

- ・プランに沿った研修計画の実現
- ・情報教育や日常の授業における ICT 活用を支援する「TT 支援」

センター研修＝50 講座 257 名(地震の影響により 7 月下旬～8 月の 11 講座が中止となった)、TT 支援＝9 回 385 人(それぞれ 1 月末時点)

(3)「教育の情報化」に対する教育用ネットワークの活用

- ・メール配信による電子メール環境活用の日常化
- ・教育センターコンテンツサーバの運用

昨年度に引き続き、情報教育の研修講座については、研修内容を学校教育研究会の情報部会のメンバーと事前協議して決定するようにした。残念ながらその多くが中止を余儀なくされたが、事前協議の場も重要な情報交換・研修の機会となっており、今後も継続して行く方向で調整を図りたい。

ようやく文部科学省から「教員の ICT 活用指導力チェックリスト」が公開され、教員が身につけるべきスキルが明確化された。今までは柏崎独自に「アクションプラン」を定め、それに沿った形で各種の支援を行ってきたが、今年度は地域に特化した部分を残しながら共通部分を強化するようにした。

カ 教科書センターの利活用

教科書展示会を実施した。

期間 6 月 8 日(金)～7 月 6 日(金)

期間中閲覧者数 220 名

キ その他

- (ア)授業研究、校内研究に対する悩み事相談とサポート
- (イ)市内各学校はじめ全国の教育情報の収集と提供
- (ウ)各学校の校内研修や発表会等への参加・支援
- (エ)自主研修サークル活動への支援
- (カ)研修の機会や事業を通してのネットワーク的機能



◆ 教育相談班 ◆

1 カウンセリングルーム

- 教育相談班のカウンセリングルーム来室相談は、1月末で 519 件となり、前年同時期の 509 件を超えた。(昨年度比 2%増)。そのうち、不登校に関する相談が最も多く、次いで、発達障害(通常学級)、となっている。不登校に関しては、小学生の不登校相談が前年より増えた(18 年度 1 年間で 14 名だったのが、19 年度は 1 月末現在で 18 名)。
- 震災の影響で、8 月から、震災心のケア関係の相談に対応した(1 月末までで延べ 17 名、34 件)。元々の発達障害から来る症状・問題行動が悪化したケースなども増加した。また、震災心のケアに関わる講演・講義の依頼が市内外から多数寄せられた。
- SST は 18 年度は、4 グループ、参加者合計 21 人を対象としていたが、今年度はグループを増やして、5 グループ合計 29 人に対してグループ指導を行っている(1 月末現在で延べ 163 人)。学校からの勧めなどにより、参加希望者も多いが、受け入れ人数の定員もあり、候補児として次期以降に待機してもらっている児童生徒が約 15 人居る。
- 相談事例ひとつひとつの重症度は年々増している(機能不全家庭や片親家庭など要保護

家庭の増加、精神障害や発達障害の合併症を抱えている事例の増加)。子ども課や児童相談所、医療機関などの外部機関との連携も更に強化していきたい。

2 適応指導教室・ふれあいルーム

- 4月に12人の通級登録者でスタートし、1月末現在で20人である。年々、単純型の不登校が少なくなり、発達障害を持つ者、機能不全家庭にいる者、精神障害を合併している者、など、通級生の状態像が複雑化している。
- 集団への適応力や個人の生きる力を養うことを目指した体験活動も、自分の好きな活動だけに参加し、他は回避しようとしたり、また、通級時間がルーズになったりする傾向が見られる。体験活動が楽しさやおもしろさだけに終わってしまいがちなのは工夫が必要と考えている。通級生本人に通級の目的意識や自己目標を持たせるようなかわりをしていきたい。

3 学校訪問相談

- 学校訪問の相談内容としては、特別支援・発達障害に関するもの、学校・学級不適応(不登校を含む)に関するものが多く挙がった。新規の相談は、カウンセリングルーム、ふれあいルーム、家庭訪問相談員につなげ、望ましい対応ができつつあるケースもあるが、学校側の意向が、該当児童生徒や家族の理解等が得られず、遅々として進まないケースもある。
- 問題行動や気になる子どもたちへの対応は、早期対応とその為の校内支援体制の早期構築が重要であると、学校訪問を通じて感じている。学校・家庭のニーズに応えるために、定期訪問・要請訪問の形態を見直し、より効果が上がると思われる同道訪問の充実や教育相談班一体となった対応を推進していく必要がある。

4 家庭訪問相談

- 今年度は、1月末現在で中学生2名に対して家庭訪問を継続してきた。いずれも発達障害が疑われるケースである。本人の新しい人と会うことへの不安の強さからなかなか顔を合わせることができないケースもあり、保護者や学校へ本人の特性の理解を促し、対応の仕方について相談を行ってきた。不登校の背景に発達障害のあるケースが多く、本人だけでなく保護者や家族、学校への支援の重要性が年々増している。
- 不登校の背景として、本人がもつ発達障害などの特性や、機能不全の家庭環境などが複雑に絡み合っているケースもみられる。そのようなケースの支援においては、本人や家族と細くても長いつながりを保ち、さまざまな情報提供をしながら寄り添っていく地道なかかわりとともに、学校や病院、子ども課、元気支援課など他の機関と連携しながら複数の目で家族を見守り、支えていくことが重要となる。今後も学校はもちろんのこと各関連機関との連携を密にして家庭訪問相談を進めていきたい。

◆ 科学技術教育班 ◆



《 重点的に取り組んだ業務内容 》

(1) 基礎・基本の確実な定着とともに科学的なものの見方が養われる単元別研修会

単元別研修会では、現場の先生方が子どもたちに指導したときに困難を感じた点を特に取り上げ、子どもが陥りやすい間違いを未然に防ぐ指導展開や発問、固執してしまいやすい誤った概念を払拭する教材などを研究開発し、指導上の工夫を伝達し、その技能に習熟してもらい、授業に即使える教材を持ち帰ってもらっている。

観察・実験の活動と習得すべき知識とが結びつきにくい小単元が数多く存在するが、具体物を操作して得られた事実を、理科の知識や論理的な説明といった抽象的な概念にまで結

びつけるには、大胆に単元構成を見直したり、観察・実験の新しい手法を導入したりすることが必要である。自ら事実を獲得し、その獲得した事実を積み重ねていくことで自然現象を論理的に説明づけることができる子どもたちの育成に努めている。

(2) 地域に根ざし、地域に出向く研修会

小学校・中学校を通じて、最も要請が多いのは、地域素材を活用する学習の研修である。なかでも、地学・生物領域の依頼が多い。現存する地域素材をまとめた冊子などを見ても、それだけでは子どもたちに指導できるようになるというものではない。季節変化により常に移り変わる植物素材、大雨や地震などによってすぐに変化してしまう地質素材に代表されるように、常に地域の自然素材は変化している。この自然の変化に対応し、学校事情に合わせて適切な観察場所と時間、取り上げる素材を吟味し提示するように努めている。

学校の先生方の理科指導に対する不安を払拭し、先生方の理科離れを食い止める水際での取り組みととらえている。現場に密着し、生の声に触れ、課題や疑問に即応することや、具体的な授業の構想を提案しながら、共に授業を考える場面を持つことこそ、子どもたちが科学的に自然を見る力を伸ばせる環境作りに直接関わることが出来、真の学力向上を目指す学校づくりの一助となれると考えている。

(3) 地域の大学との連携

新潟工科大学と連携し、青少年のための科学の祭典を行っている。6月と11月に柏崎刈羽の学校の先生、地元企業、さらに、新潟工科大学の教授・学生と協力して合計33ブースの科学実験を行った。3900名を超える来場者を数え、科学の不思議さ、ものづくりの大切さを広く地域に訴えた。今年度から、大学の学生によるブースの運営を交えることとし、より子どもたちになじみのある言葉や、若い感性を持つ10代後半～20代前半の学生達によって理科好きな子どもたちを育てることを試みている。今後も、専任所員が大学の学生を含むブース運営者への指導に赴くなど、理科教育に携わる人材との連携を強化し、小・中学校の子どもたちと理科系の大学生との交流による科学の啓発活動を地域の理科教育の重要な基盤にしていきたい。

また、柏崎刈羽の理科教育に携わる多くの人材が、この科学の祭典の運営に関わることで、小学生から大学生までの理科教育のつながりを意識するきっかけになると考えている。理科学習のギャップとは、中一ギャップだけではなく、高校や大学への進学の際に、非常に大きな概念を覆すほどのギャップがあると思われる。小学校～大学の理科教育に携わる先生方が、それぞれの子どもたちの発達段階においてどのような科学概念を形成することを目的としているのか、子どもを介して互いに交流することができると考える。高度な科学概念を小学生でも感じ取ることが出来るように工夫する視点を持つことや、素朴概念に立ち戻らせる必要性を大学生にも意識する機会をもつよう働き掛けることなどを通して、柏崎刈羽の理科教育に携わる人材の力量をより一層高めることにもつながると考えている。

(4) 地域の人材と学校とのコーディネート

柏崎の植物、貝、昆虫、天文などの地域の人材や、海洋生物環境研究所や原子力広報センターなどの企業と連携し、自然への啓発活動やエネルギー教育などの活動を行っている。また、地域の自然を取り上げた総合学習などの各学校の取り組みを共同で支援するネットワークを構築している。科学の祭典や、互いの科学のイベントでの交流により、顔の見える地域人材の把握が可能となっている。人材リストだけを見て、全く知らない人や企業と連携して学校の教育活動を仕組むのは、現場の先生方にとっても敷居の高いことである。地区理科センターの専任所員が地域の人材と学校との間をコーディネートすることで、理科の

視点から、地域が子どもを育てることに深く関わってもらえるようになると考えている。

《 現状の課題と今後の方向性 》

(1) 若い先生方の理科研修会参加について

特に、「実験の基礎技能」のような研修会では、経験の少ない先生方にこそ参加して欲しいところであるが、若い先生方の参加が少なく、逆に経験豊かな先生や教頭先生の参加が多く見られる。「自分の研究教科は理科だ」と自信を持って言える若い先生がさらに増えるよう、各学校や理科主任会などで、強く働き掛けていきたいと考えている。

(2) 子どもたちの体験活動の保証について

月や星の観察や地層の観察などのように、小・中学校の学習指導要領において「野外観察を行うこととする」と明記されている単元においても、子どもたちに観察の機会を持たせることがなかなかできないという声をよく耳にする。実施しなければならないと分かっているけれども、実施せずに先送りしている学校が少なくないのは指導の困難さ故であろう。

地層観察を例にとってみると、学校にある石の標本を観察するだけでは特別な物体を眺めているに過ぎず、子どもたちにとっての身のまわりの自然の見方が養われるわけではない。実際の地層を目にして、触れてみたときに、疑問が生まれ、何を調べたいのか何を学びたいのかが明確になってくるものである。観察地点の大地がどのようなはたらきで出来たものであるかなどの追究活動を行うことで、科学的な根拠に基づいた自然の見方が身につくものであると考えられる。

年度当初から年間計画の中に入れてもらうようお願いし、必ず実施するように働き掛けていきたい。

また実施に際しては、今年度同様、要請に応じて各学校に出前授業をする形での支援を継続していく予定である。

(3) 教員対象の要請研修会の連絡調整について

子どもたちを対象とした要請研修会は、各観察会や科学クラブ、科学研究の進め方などで数多くの活用をいただいているが、要請のほとんどが授業日であるために比較的要請希望日が重なってしまうようなことは少ない。しかし、教職員を対象とした要請研修会の希望日はどうしても夏休みに集中してしまう傾向にあるため、希望する内容とかみ合わないことがある。例えば、野外の動植物などを対象とした研修会であれば、時期が合わないために実施が難しいなどの不都合が生じることがある。各学校事情による日程と希望する内容のバランスが取れるよう、今年度以上に年度の早い段階から綿密な連絡を取り合い相談に応じていきたい。

◆ 視聴覚ライブラリー ◆

(全体の部 6に記述)



平成 20 年度教育センター運営の基本方針(案)

1 基本方針

これからの柏崎の教育の在り方を見据えながら、学校や地域・保護者の期待や要請に応える教育の相談・指導・支援に関する事業をより充実させる。とりわけ、教職員研修と教育相談を事業運営の 2 本柱として事業を推進し、柏崎の教育に貢献する。

2 事業運営の方向

1 教職員研修講座に対する意識の高揚を図り、研修講座の内容・方法を工夫する

現在の教育課題に的確に対応できる教職員の資質や指導力の向上を図るために、研修の目的や意義の自覚化を一層促すとともに、研修講座の内容・方法を検討してより効果的に研修ができるよう受講しやすい環境を整備する。また、柏崎刈羽学校教育研究会と実質的な連携をした研修体制を確立して、より効率的・実践的な教職員研修を作り出す。

2 教育相談体制の充実を図り、児童生徒の健全な成長を促す

児童生徒の悩みや問題行動の予防と解決を目指して、ケースワークを中心とした教育相談体制をつくる。すなわち、カウンセリングルーム、ふれあいルーム(適応指導教室)、学校訪問相談員や家庭訪問相談員が一つの事例に対して有機的に連携を取り、必要な場面でそれぞれの専門性を発揮して、その問題事例の全体的解決を図るように努めることである。

3 教育の情報化をより推進する

教育ネットワークの整備と活用を進め、教育センター事業の理解と協力を得ながら学校現場の利活用の促進を図るとともに、教育に関する新しい情報の発信をする。

3 実施事業の重点

1 各教科、各種教育等の専門研修講座

- ・ 新学習指導要領に関わる研修、主体的に参加できる研修、今日的課題と特色ある専門講師の招聘、教育研究会等との共催による専門研修講座
- ・ 特別研修、若手教員研修、調査研究、教科研修員、教科書センター運営等

2 情報教育及び教育の情報化に関わる教職員研修

- ・ 情報教育の指導・活用、校務の情報化講座、情報教育に関する相談支援

3 教育相談事業

- ・ 相談事例の総合的な相談体制、ふれあいルーム(適応指導教室)の運営、カウンセリングルームの教育相談活動、学校訪問相談、家庭訪問相談

4 科学技術教育の振興と啓発事業

- ・ 教職員理科研修(特に地層観察研修)、自然観察会、科学作品展、科学研究発表会、科学の祭典、研究奉仕活動

5 視聴覚教材・機材の提供

- ・ 視聴覚教材、機材の貸出と利活用相談、視聴覚機材研修会等

6 広報活動

- ・ 教育情報支援システムの運用、教職員個人メールアドレスの活用
- ・ 所報「ガリレイ」の発行と配信



No.77	平成 20 年 3 月 4 日発行	柏崎市立教育センター	945-0833 新潟県柏崎市若葉町 2-31 TEL:0257-23-4591 FAX:0257-23-4610
-------	-------------------	------------	--

筑波大学附属小学校 学習公開・初等教育研修会に 行ってきました！

2月14日・15日に行われた筑波大学附属小学校の研修会に参加してきました。当センターの研修講座において頂いたことのある国語の白石先生、青山先生、算数の田中先生など、超有名な先生方の授業が参観できるとあって、全国からものすごい数の参加者でした。

2月15日は新学習指導要領案が文部科学省から発表されるということもあり、新しい学習指導要領の趣旨をどう解釈するかという点で、白熱した激論が交わされていました。



入り口の看板の向こうには



受付30分前から長蛇の列



講堂は通路までいっぱい



書籍を買うのも一苦労

快適に研修会に参加するための方法

今年行けなかった皆さんの中にも、来年以降、是非、参加してみたいと思っている方もいることでしょう。そこで、どうしたらよりスムーズに研修会に参加することができるか、まとめてみました。おすすめ度を 5 ツ星で表しています。★が多いほどおすすめ！

- ★★★★★ **受付30分前には到着する。**……………
これくらい前に並べば、自分のみたい授業をよいポジションで見ることが出来ます。
受付 30 分前に到着するためには、当時の朝に柏崎を出発したのでは間に合いません。
前日に東京まで出ておくか、2 日間参加して 2 日目にじっくり参加することがよいと思います。
- ★★★★☆ **朝、茗荷谷駅に到着してすぐに帰りの切符を購入しておく。**……………
学校は地下鉄丸の内線の茗荷谷駅で下車します。池袋から 2 駅なので宿泊するなら池袋駅周辺が便利です。
参加者が一斉に帰路につくので、地下鉄の切符を購入するだけで、かなり待たされます。
同様に、東京駅で上越新幹線の切符を購入するのもかなりの列を並ぶ必要がありますので、柏崎駅で往復を購入しておくことをお勧めします。
- ★★★★☆ **昼食は会場で購入できる弁当ではなく、パンやおにぎりなどを持参する。**……………
弁当を受け取るだけで、かなり待たされます。駅近くのコンビニで購入しておくといよいでしょう。
- ★★★★☆ **いろいろな場面で待ち時間が長いので、時間つぶしのアイテムを持参する。**……………
音楽プレーヤーや文庫本など小さなものもいいです。紀要を読むという手もありますが、学校以外ではなかなか広げられません。また、口臭予防のタブレットやグミなども気分転換になります。
- ★★★★☆ **書籍や教材の購入は、販売員に声を掛けて連絡先を覚えてもらい、後から買う。**……………
あれもこれもほしくなりますが、その場で購入すると荷物が重くなります。書名を覚えておいて、ネットで注文するという方法もありますが、メーカーの連絡先へ直接連絡すれば、期間は限定ですが、後からでも研修会価格で購入できます。
- ★★★★☆ **なるべく身軽にする。**……………
手荷物預かり所がありますので、大きな荷物は預けて、資料と筆記用具、貴重品くらいで行動した方がいいです。でも、弁当と同じで受け取りのタイミングを考えないと、かなり待たされる可能性もあります。
- ★★★★☆ **手袋やマフラーを用意する。**……………
新潟に比べれば春の陽気ですが、それでも朝はかなり冷え込みます。体調万全で臨むためにも防寒対策はきっちりと
- ★★★★☆ **デジカメ、IC レコーダーを用意する。**……………
授業中の撮影は子どもたちを保護する観点から禁止ですが、授業後の黒板を撮影したりするのは OK でした。
また、混み合う中でのメモは大変なので、IC レコーダーが便利かもしれません。

📁 トップページ(柏崎オリジナルコンテンツ)

トップページの「柏崎オリジナルコンテンツ」欄に以下のコンテンツを新たに登録しました。

- ・「仕事や生き方を考える学習ノート(中学校編)」
同じものを教材データベースにも登録してあります。

- ・平成 19 年度「総合」教育研究部の研究・実践集



📁 教材データベース新規登録教材

登録日	教材名	説明
H19.12.19	仕事や生き方を考える学習ノート(中学校編)	キャリア学習, 起業学習用の学習ノート(中学校編)

📁 支援システムの最新情報をお知らせする RSS の配信を開始しました

RSS って何？

「RSS」は、Web サイトの記事の見出しや概要を配信するために用いられる技術です。「RSS」で提供されている情報は「RSS リーダー」と呼ばれるソフトウェアや、通常のブラウザでも閲覧することができます。普段よく見る複数のサイトを登録しておけば、「新着情報をさっと眺める」という使い方ができて便利です。

「RSS」を提供している Web サイトには、ページ内に  **RSS** のようなアイコンが置いてありますので確認してみてください。

どう使うの？

支援システムの新着情報は「http://kedu.kenet.ed.jp/rss_update.xml」で提供しています。RSS リーダーで閲覧する場合はこのアドレスを登録してください。RSS リーダーを使用しなくても、Google のアカウントを持っていれば「iGoogle (Google のページに最新のニュースや天気などを自由に追加することができ、自分専用に Google トップページを構成できるもの)」に登録して閲覧することができます。Google 用のガジェットも用意してありますが、他の RSS 用ガジェットで上記アドレスを登録すれば閲覧可能です。

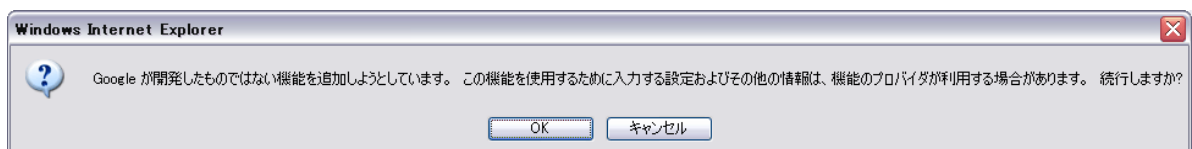
■ 専用のガジェットを使用する場合は、「フィードやガジェットの追加」から以下のアドレスを登録します。

📁 フィードやガジェットを追加

下記に URL を入力するか貼り付けてください。

次の情報 [フィード所有者 - デベロッパー](#)

途中以下のような警告が表示されますが、「OK」をクリックして進めてください。



登録が完了すると以下のように支援システムの最新情報を閲覧できます。

The screenshot shows a Google search results page for 'Hirakawa City Education Information Support System'. The search results include a snippet with the title '更新情報 - 柏崎市教育情報支援システム' and a list of updates. Two callout boxes are present:

- 汎用のガジェットで支援システムの RSS 情報を表示した例** (Example of displaying support system RSS information using a general gadget): This box points to a 'Slim RSS Reader' gadget showing a list of updates with links.
- 専用のガジェットで支援システムの RSS 情報を表示した例 (表示件数などを変更することも可能です)** (Example of displaying support system RSS information using a dedicated gadget (display count, etc. can also be changed)): This box points to a dedicated RSS reader gadget showing a list of updates with links.

■ ■ ■ セキュリティ情報 ■ ■ ■

🖨 セキュリティホール情報

マイクロソフトより、2月13日付けで2月の定期更新として、Windowsなどの重要な更新が下記のように公開されました。まだUpdateが済んでいないようでしたら、至急WindowsUpdateなどを実施していただくようお願いします。なお、ご利用の環境によっては以下の更新以外にも、別の更新がリストアップされる場合があります。また、一旦更新プログラムが提供された後で再度問題が見つかり、予告なく新たな更新が提供される場合もありますので、「自動更新機能をONにする」、「定期的に更新をチェックする」などして、随時提供される更新が速やかに適用されるようにしてください。

No.	更新の名称	脆弱性等の情報	対象	更新先	深刻度
1	MS08-004 Windowsの重要な更新	Windows TCP/IP の脆弱性により、サービス拒否が起こる (946456)	Windows Vista	Win	重要
2	MS08-007 WebDAVの重要な更新	WebDAV Mini-Redirector の脆弱性により、リモートでコードが実行される (946026)	Windows XP, 2003Server, Vista	Win	緊急
3	MS08-008 Windowsの重要な更新	OLE オートメーションの脆弱性により、リモートでコードが実行される (947890)	Windows 2000, XP, Vista 2003Server, Office 2004 for Mac, Visual Basic 6.0	Win	緊急
4	MS08-009 Wordの重要な更新	Microsoft Word の脆弱性により、リモートでコードが実行される (947077)	Word 2000, XP, 2003 Word Viewer 2003	Office	緊急
5	MS08-010 Internet Explorerの重要な更新	Internet Explorer 用の累積的なセキュリティ更新プログラム (944553)	IE 5.01, 6, 7	Win	緊急
6	MS08-011 Officeの重要な更新	Microsoft Works ファイル コンバータの脆弱性により、リモートでコードが実行される (947081)	Office 2003SP2, SP3, Works 8.0 Works Suite 2005	Office	重要
7	MS08-012 Publisherの重要な更新	Microsoft Office Publisher の脆弱性により、リモートでコードが実行される (947085)	Office Publisher 2000, 2002, 2003	Office	緊急

No.	更新の名称	脆弱性等の情報	対象	更新先	深刻度
8	MS08-013 Office の重要な更新	Microsoft Office の脆弱性により、リモートでコードが実行される (947108)	Office 2000SP3, XPSP3, 2003SP2, 2004 for Mac	Office	緊急
9	MS08-003 Windows の重要な更新	Active Directory の脆弱性により、サービス拒否が起こる (946538)	Windows 2000Server, XP(ADAM 導入環境), 2003Server	Win	重要
10	MS08-005 IIS の重要な更新	インターネット インフォメーション サービスの脆弱性により、特権の昇格が起こる (942831)	Windows 2000,XP,Vista, 2003Server	Win	重要
11	MS08-006 IIS の重要な更新	Microsoft インターネット インフォメーション サービスの脆弱性により、リモートでコードが実行される (942830)	Windows XP, 2003Server	Win	重要

Win は Windows Update または Microsoft Update, **Office** は Office Update から更新を実行します。

なお、Office が 2002(XP)以降なら Microsoft Update を利用すると、まとめて実行することができます。

注意 警告 重要 緊急 は右側ほど深刻度が高く、緊急の対応を要します。

IE7 の自動配布が開始されました

今回の更新から、WindowsXP ではインターネットエクスプローラーが「バージョン6」から「バージョン7」へ自動的に更新されます(従来のバージョンをそのまま使いたい場合は、リストアップされる更新の該当欄のチェックを外してください)。いったん更新されても、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から「Windows Internet Explorer 7」を削除すれば元のバージョンに戻すことができます。新しいバージョンの使い方や、前のバージョンへの戻し方などは下記アドレスに詳しく紹介されていますので参照してください。

<http://www.microsoft.com/japan/windows/products/winfamily/ie/au/default.mspx>

H19.10.10	Win	IEでWebページの一部だけを印刷する	tips084.pdf(221KB)	tips084.doc(155KB)
H19.11.15	Win	IEでうっかり閉じてしまったWebページをすばやく表示する	tips085.pdf(234KB)	tips085.doc(189KB)
H19.11.15	Win	IE7のタブ機能を上手に使う	tips086.pdf(1.3MB)	tips086.doc(669KB)
H19.11.15	Word	Wordではみだした数行を前ページに収める	tips087.pdf(170KB)	tips087.doc(90KB)

プロジェクトA

(科学技術教育班だより)

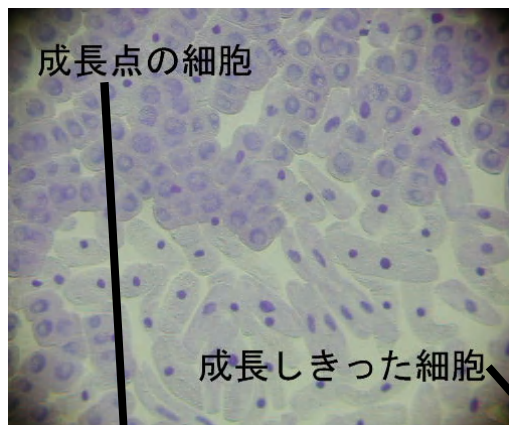
研修会のひとコマ紹介

中学校第2分野 「生物の細胞と殖え方」

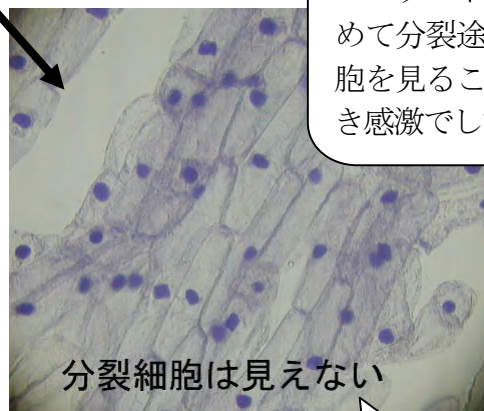
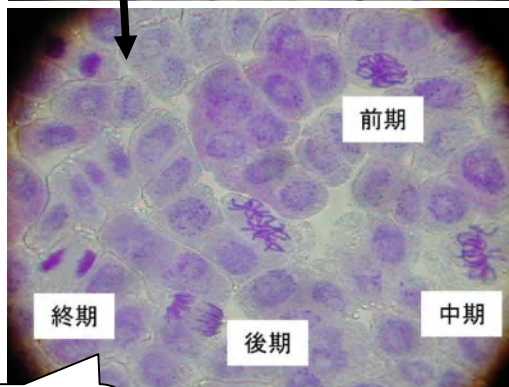
◇日 時 2月7日(木)

◇会 場 柏崎市立教育センター

◇内 容 分裂細胞の確実な観察を保証する実験方法の伝達を中心とした研修でした。
約12分で固定・解離・染色を同時に行う事ができ、十分に観察時間を確保できる酢酸ダーリア塩酸染色法の実習と薬品の配布、またネギの種子を使った分裂細胞の調達法やタマネギの発根を促進させる方法などの研修を行いました。
さらにアカムシユスリカのだ腺染色体の観察や花粉管の観察の実習も行いました。



自分のつくったプレパラートで、初めて分裂途中の細胞を見ることができ感激でした。



今まで何回やってもうまいかなかった細胞分裂でしたが、ネギの根を使った実験は大変参考になりました。学校で積極的に取り組めそうです。



酢酸ダーリアの染色の見やすさには驚きました。学校でも是非やってみたいです。

※ 実験方法や薬品等、お困りのことがありましたら科学技術教育班へご相談ください。

平成20年3月4日

心の窓

(教育相談班だより)

No. 104

柏崎市立教育センター〒945-0833 柏崎市若葉町2番31号 Tel (代表) 23-4591
(Fax) 23-4610

19年度総括～教育相談班～

教育相談班の本年度の活動

<ふれあいルームの活動>

4月に、12人の登録者でふれあいルームがスタートしました。市外への転校で通級しなくなった児童・生徒もいますが、2月の登録者数は20人です。

地震で不安定になる児童・生徒が出ることを心配しましたが予想より少なく、周りからの援助もありそれぞれが自力で解決したようです。

今年度の特徴としては、体験活動には、特別な事情が無ければ参加するのが当たり前という雰囲気があったことです。人に接することの苦手な子どもたちにとってふれあいルームの指導員以外の人たちと接することは有意義なことであり、体験活動が立ち直りに有効に働きます。国立妙高少年自然の家での宿泊体験は、昨年まで参加希望者が少なく直前になって中止していましたが、3年ぶりに実施することができました。国立妙高少年自然の家では、アドベンチャープログラム、キャンドルサービス、創作活動を体験しました。特にアドベンチャープログラムでは、「自分にやる気がないと他の人が協力してもうまくいかない」「頼るときには全面的に頼っていいんだよ」「皆の力を一つにするにはどうすればよいか」等、体を通して体験しました。夜のキャンドルサービスでは、一日の感想を述べてもらいましたが、児童・生徒の成長ぶりに、指導員が思わず涙ぐんだことを昨日のことのよう思い出します。

「ふれあいルームでどんな力をつけたいのか」、「今の自分の力では、どこまでがんばれるのか」、など学校復帰に向け、自分に適した目標を掲げがんばれるふれあいルームにしていきたいと思います。

(ふれあいルーム 矢嶋信昭)

<家庭訪問相談>

今年度は、小学生1名、中学生3名の計4名に対して家庭訪問相談を行ってきました。発達障害が疑われるケースが多く、新しい人と会うことに不安を感じたり、過去の先生や友達との嫌だった体験が思い出されたり、過度に人に気を使ってしまったりするために、人とかかわりを持つことに対して苦手意識が強かったり、否定的な感情を抱いていたたりするお子さんが多いように思います。中には不安が強いために、顔を合わせるできないケースもあります。

このようなお子さんは決して怠けてダラダラしているだけではありません。本人なりに自分の中で様々な不安と闘っているのですが、自分でもどうしたらよいか対処法がわからず、そして家族や先生にも理解されず、とても苦しんでいるように思います。

家庭訪問相談に際して心がけてきたことは、まず、お子さんの持つ特性の理解を保護者に促し、家庭の中で受け入れられ、安心して過ごすことができ、元気がでるようお手伝いすることでした。そして、私とかかわりを持てるお子さんについては、指導的な意味合いは抜きにして楽しく遊び、人とかかわることの「楽しさ」を伝えられるよう心掛けてきました。中には複雑な要因により家庭の機能が低下しているケースもありますが、各関係機関と連携を取り合いながら、お子さんが明るく・楽しく・元気よく過ごせるようお手伝いできればいいなと思っています。

(家庭訪問相談員 長谷川大)

<教育電話相談>

教育センターでは、原則として、中学生までの児童生徒とその家族を対象に、不登校の問題やその他の教育面・生活面の悩みについて、専用電話による匿名での相談に応じています。

今年度の利用件数は31件（2月末現在）と昨年度とほぼ同数です。相談利用者は、高校生の母親が最も多く、ついで、小学生・中学生の母親、幼児の家族、一般の方となっており、同じ方からの再相談もあります。主な相談内容は、いじめの問題、交友関係、発達相談、親子関係、震災後のお子さんの症状についてなどでした。対応としては、お話をお聞きし、お子さんにとってどうすることが良いのか、何ができるのかを一緒に考えますが、子どもさんの状態や相談内容によっては、医療機関や他の専門機関をご紹介します。相談件数は減少の傾向にありますが、高校生保護者の相談では男女交際について、中学生保護者の相談では子どもの性的関心への対応について等の内容もあり、深刻な状況を未然に予防する役割を担い、困ったとき迷ったときに気軽に匿名で利用できる教育電話相談の重要性を感じています。

電話相談ではお子さんの問題の背景に、相談者自身の罪悪感や葛藤、悲観などが存在します。電話をくださったことに感謝し、思いを聴くことで、親御さんは自ら状況改善のため行動します。相談者が子育てに自信を持てるよう、安全と安心感を伝えられる教育電話相談であるよう努めていきたいと考えています。

【大丈夫ですよ。子どもさんの思いを、また、聞いてあげてくださいね。安心して、家族みんなで幸せになりましょう。応援しています。】
（文責 本間良子）

<カウンセリングルーム>

19年度のカウンセリングルームの来室相談は、2月末時点で210名580件となり、前年同時期の194名519件を超えました（昨年度比12%増）。そのうち、不登校に関する相談が最も多く、次いで、発達障害（通常学級）、となっています。不登校に関しては、小学生の不登校相談が前年より増えたことが当センターの特徴です（4月～2月末までで19名が来談）。また、中越沖地震後の8月から、「震災心のケア」関係の相談にも対応しましたが（1月末までで延べ17名、34件）、元々の発達障害や心身の不調から来る症状・問題行動が震災を契機に悪化した例なども見られました。

相談以外にも、いろいろ体験グループSST（発達障害の子どものためのSST）、就学相談への協力、研修講師依頼（特別支援教育に関する内容、震災後の心のケアに関する内容、ほか）、ピアサポーター養成研修講師依頼（一中、五中）等にも対応してきました。

教育相談班全体の今後の課題としては、機能不全家庭や片親家庭などの要保護家庭の増加や精神障害や発達障害の合併症を抱えている事例が増加していることを踏まえ、子ども課や児童相談所、医療機関など、医療・福祉の専門機関との連携を更に強化していく必要性を痛切に感じているところです。

カウンセリングルームの相談内容別面接件数（H19年4月1日～H20年2月末まで）

	就学相談	発達障害 （通常学級）	発達障害 （特支学級）	不登校	いじめ	集団不適応	心身の 問題・不調	情緒・精神障害	親子関係	その他	合計
面接件数 （人数）	22 (16)	172 (58)	37 (22)	223 (69)	2 (2)	41 (14)	9 (4)	8 (2)	5 (2)	51 (21)	580 (210)



＜学校訪問相談＞

- 学校訪問の相談内容は、特別支援・発達障害に関するもの、学校・学級不適応（不登校を含む）に関するものが多く挙がりました。また、若手教員の悩みなどの相談もありました。
新規の相談は、カウンセリングルーム、ふれあいルーム、家庭訪問相談につなげ望ましい対応ができつつあるケースもありますが、学校側の意向が該当児童生徒本人や家族の理解等が得られず遅々として進まないケースもありました。
- 問題行動や気になる児童生徒への対応は、早期対応、また、学校への支援体制の早期構築が重要であると訪問を通して実感しています。そのため、学校や家庭のニーズに応えるために、今までの定期訪問、要請訪問の形態の見直し、また、効果があがるとされる同道訪問の充実、そして何よりも教育相談班一体となった対応を推進していく必要があります。
- 学校訪問の相談体制を社会の変化に対応できるよう充実・改善していくことは当然のことです。さらに、肝心なことは、それぞれの学校でも児童生徒のために取組む体制の充実・改善が求められています。校務多忙の中、限られた職員数でどのように推進していくかの工夫が求められます。このような学校体制作りの支援、相談が今後必要になると思われます。特に最近言われているグレーゾーンの児童生徒の対応が第一に挙げられます。具体的に適応指導教室、交流学級、保健室運営、保護者対応、専門機関との連携などその推進の相談です。学校運営・方針に関わる部分になるので、どこまで関わればよいか難しいところですが、お互い共通理解し合いながらできる範囲で関わるが必要になると思われます。

（文責 滝澤富士男）

教育相談班ワンポイント講座

北風より太陽になれ

北風と太陽の童話のように、教師（大人）も「子どもの殻」を無理やり脱がせる北風でなく、自分から自然に脱いでいくようにする太陽になることが大切である。いつでも、じっと照らし、見つめ続け、一枚一枚焦らずに脱がせるように心がけることが大切である。

また、このような言葉も忘れられない一言である。

教師は、月になれ。月は太陽に照らされて輝くもの、教師が輝けるのは、太陽である子どもが輝いて、その輝きで教師が輝くのである。

（川口市立在家中学校校長の山本哲雄先生の言葉）

※ 教育相談班 3月の予定

* ふれあいルーム

7日（木）保護者会

21日（金）通級終了日



今年度もたくさんのご利用ありがとうございました



日に日に春めいてまいりました。新年度に向けて非常に慌ただしい時期となりましたが今年度最後の視聴覚ライブラリー通信「プラNET」をお届けします。今年度も多くの団体から視聴覚ライブラリーをご利用いただきましてありがとうございました。全体でみると総貸出数は減少傾向にありますが、利用者の要望にできるだけ応えられるよう努めますので来年度もぜひ視聴覚ライブラリーをご利用ください。

貸出状況（機材）

機材	学校教育	社会教育
液晶プロジェクタ	22	101
スクリーン	0	58
16ミリ映写機	0	21
デジタルカメラ類	234	24
その他	30	163
合計件数	286	367

貸出状況（教材）

種類	学校教育	社会教育
16ミリフィルム	0	122
ビデオテープ	243	90
DVD	2	12
合計件数	245	224

教材貸出ランキング！

《学校教育》 ※すべてビデオテープ

	タイトル	回数
1	あした元気になあれー元気配達人 松村智広ー	8
2	ドキュメンタリー「結婚」	5
3	峠を越えてー魂の同和教育実践者・森口健司ー	4
3	出会い系サイトの危険	4
4	差別と人権の歴史	3
4	凶器にも変わる携帯電話	3
4	友情のキックオフ	3
4	植物の成長ー実や種のできかたー	3
4	大地のつくりと変化	3
4	きずなー人間の詩 パート2ー	3

《社会教育》 ※16ミリフィルム

	タイトル	回数
1	じごくのそうべえ	5
2	ミッキーマウスのお化け退治	4
2	おむすびころりん	4
2	ドナルドダックとゆかいなペンギン	4
2	ミッキーマウスの楽しい冬	4
2	こぎつねコンとこだめきポン	4
2	ミッキーマウスと魔法のぼうし	4
3	7匹の子やぎ	3
3	ドナルドダックの朝ごはん	3
3	空とぶマウス	3

《社会教育》 ※DVD・ビデオテープ

	タイトル	回数
1	林家木久蔵師匠の高齢者交通安全物語	10
2	ちびまる子ちゃんのこんな乗り方危ないよ	8
3	じごくのそうべえ	7
4	10ぴきのかえる	4
4	柏崎グラフィティ	4
4	忍たま乱太郎の自転車安全教室	4
5	アニメ ハチ公物語 (DVD)	3
5	ASTRO BOY 鉄腕アトム (DVD)	3
5	ピーターパンの冒険	3
5	おばけ長屋	3

来年度ご利用の参考にどうぞ！！

新着教材紹介

視聴覚ライブラリーに新しい教材が入荷しました！地震のため秋に選定できず、購入が大変遅くなり申しわけありませんでした。随時貸出しますのでぜひご利用ください。

小学校向け (すべてビデオテープ)

教科	タイトル	分	管理番号
理科	かげのうごきと太陽	15	V04-029
	環境を守ることの大切さ(公害をふせぐ・森林の大切さ)	15	V04-030
社会	みるみる社会科 浄水場を見てみよう	8	V08-108
	みるみる社会科 清掃工場を見てみよう	9	V08-109
	みるみる社会科 下水処理場を見てみよう	9	V08-110
	みるみる社会科 警察の仕事を見てみよう	9	V07-040
	地域でちがう日本の気候	11	V05-064
	長く続いた戦争と人びとのくらし	18	V06-046
保健	ぎもん・しつもん！かぜ インフルエンザの予防	21	V09-137

中学校向け (すべてビデオテープ)

教科	タイトル	分	管理番号
特活	中学生のいじめを考える 被害者・加害者・観衆・傍観者	19	V14-046
技術家庭	架空請求のワナ	19	未定
保健	さらば、哀しみのドラッグ～No という勇気を持とう～	22	V09-138

共通教材 (すべてビデオテープ)

教科	タイトル	分	管理番号
特活	なくそう 子どものネット悲劇(生徒用)	15	未定
	なくそう 子どものネット悲劇(保護者・指導者用)	17	未定
人権 同和	部落の歴史(中世～江戸時代)～差別の源流を探る～	27	V15-098
	部落の歴史(明治～現代)～近代化が存続させた差別～	26	V15-099
	私からはじまる人権 一子どもに伝える 柴原浩嗣・宮前千雅子ー	27	V15-100

社会教育用教材 3月中入荷予定教です

※入荷次第、貸出開始します

	タイトル	分
交通安全	自てん車安全大作戦 歌おう！ぼくらの交通安全	23
	楽しく街にでましょう	23
	高齢者だからこそ知っておきたい交通ルール	
アニメーション	こびとといもむし	10
	みみずくとお月さま	11
	双子の星(バリアフリー2本組)※DVD	26
	夢ものがたり(落語アニメ)	20
	ぼくは王さま①(2話収録)	30
	イソップ物語①(きこりと金のおの他3編)※DVD	60
	イソップ物語②(北かぜとおひさま他3編)※DVD	60
	イソップ物語③(こな屋とロバ他3編)※DVD	60
	イソップ物語④(森の番人他3編)※DVD	60

寄贈作品紹介

築こう！
安全・安心なまちを
ー手をつなぎあう
住民たちー
(D22-004) 24分



機材・教材の予約はお早めにー視聴覚ライブラリーからのお願いー

時期的に利用が混み合うマックスアート(長尺印刷機)や交通安全教育教材などはお早めにご予約をお願いします。ご予約は電話 23-1168までどうぞ！

育成センター通信	0803	柏崎市青少年育成センター 〒945-0833 柏崎市若葉町2番31号 TEL0257-20-7601 FAX0257-23-4610 ikusei@city.kashiwazaki.niigata.jp
----------	------	--

3月の予定

日	曜	ことがら	日	曜	ことがら
7	金	育成委員会三役会	24	月	夜間育成活動
14	金	昼間育成活動	18	火	育成センター運営委員会
未		育成委員会役員会	未		

メディアによる影響 ～子どもの生活

リズムと脳への影響～ 参加者の声

2月16日 13時～15時 柏崎産業文化会館 380人参加
 神山 潤先生の講演会がありました。参加者の感想の一部をご覧ください。



- 昼間、子どもと体を動かして遊び、早く眠れるようにしてあげたいと思いました。
- 医師の立場で人間本来の身体・脳の働きを具体的に教えていただきました。眠りの大切さを学びました。
- 親の都合で子どもを夜の街に連れ出さないようにしたいです。
- メディアに携わる人も迎えて、討議・啓発の場をつくってほしい。
- 私は小さい時に父母に、早寝早起きをしつけられました。今、そのことを孫

に伝えています。

- 大変良かったです。今後も続けてください。
- 親が身をもって手本になるようにしていきたいと思いました。楽しい講話ありがとうございました。
- とてもいい話でしたが、早口すぎました。
- 睡眠不足からくる弊害・障害が明らかならば、もっと社会にアピールするべきだと思いました。
- 我が家ではゲーム機を与えていませんが、このことをよその人に話せない雰囲気があります。
- 市外に勤務していますが、この情報を勤務地で伝えて啓発しようと思います。
- 普段は夜更かしが多いので、気をつけたいと思いました。
- 毎年、講演会に出席していますが、今回は特に「眠り」についてよく分かり、目からウロコでした。
- テンポのよいお話で時間が経つのがあつと言う間でした。ありがとうございました。
- 本日の先生のお話、できたら私たち大人より、直接、子どもに聞かせたいと思いました。
- 内容が少し難しい部分もありましたが、よい講演会だった。
- 今日は、分かったつもりでいますので、後日、著書を読んでよく考えたいと思いました。
- 睡眠の大切さをあらためて考えさせられました。家族で話し合ってみたいと思いました。
- 途中、眠くなりそうでしたが、神山先生のユーモアある話に眠気もなくなりました。
- リテラシー、眠りの意義等キラリと光る価値観に触れることができました。
- 私自身子どもの手本になるよう規則正しい生活を心がけようと思います。
- また、神山先生の講演を聞いてみたいです。
- 本当に睡眠の大切さを実感しました。分かりやすい説明ありがとうございました。
- この会は、メディアについてさまざまな観点からお話が聞けて毎回、参考になります。
- 我が家の子どもの成績がトップ入りしない原因が寝不足にあったのかと思いました・・・。
- よくかんで食べ、日中たくさんの光を浴びて、早寝早起きを心がけたいと思いました。
- 注意深く日ごろの生活を送っていくことの重要さを感じました。
- メディアの影響よりも、生体リズムが重要ということを強く考えさせられました。
- 人間について、分かっているつもり



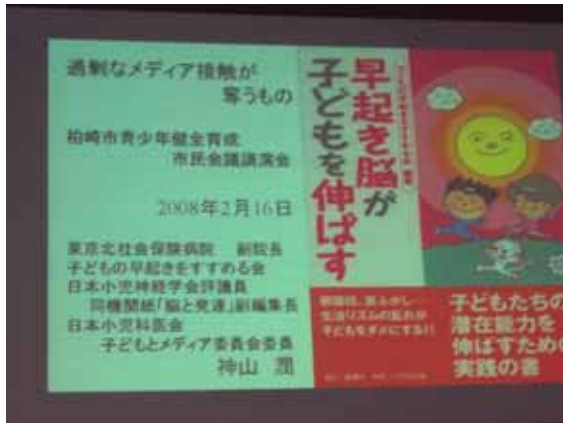
参加者 380 人



山崎高美会長

でしたが、実際はよく理解していなかったことが分かりました。

- 時間の大切さを一層考えました。睡眠が大切だ、お日様も大切だと思いました。
- 先生の早口と専門用語が多かったの



- なるほどと思うことがたくさんありました。もう一度よく考えてみることでですね。

本日のキーワード 6つ

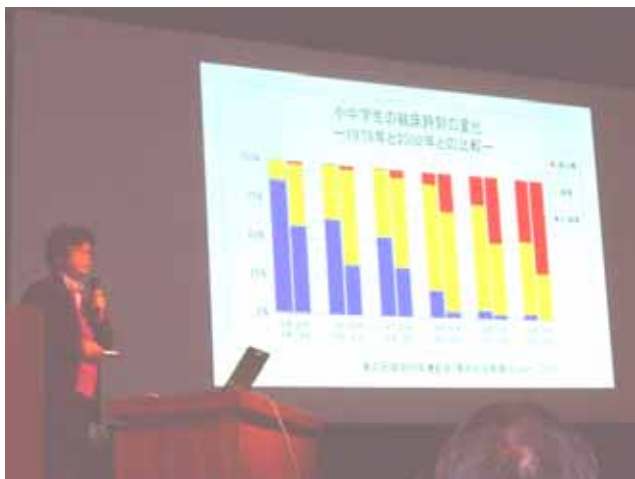
大切なのは: **朝の光、昼間の運動**
 とんでもないのは: **夜の光**
 知っていただきたいのは:
生体時計、セロトニン、メラトニン
 その上で **理論武装を**

- で、手話の方がかわいそうでした。
- セロトニン、メラトニンの働きが分かりました。朝の光でリセットし、心も体も健康にしたいです。
- 初めて参加しました。想像していたより聞きやすく考えさせられる講演でした。
- 眠ればよいと考えていた眠りについて、考え方が変わりました。家庭で少しずつ考えていきたいです。



講師 神山潤さん

- 講演会、参考になりました。途中、いろいろなお話を入れていただき楽しかったです。
- 早寝早起き、食べること、運動することを子どもとともに実践できるようがんばります。
- 神山さんの本をよんでみたいと思いました。
- 当たり前と思っていたことの根拠が分かり納得しました。自分自身のこととして反省しています。
- 我が家では夜9時に寝るのが当たり前の生活です。とても健康なのありがたいと思います。
- 人として必要なことを分かりやすく、眠りから教えていただきました。
- 春に講演会、一年通して各々活動し、年度末にグループ討議する・・・のはいかがでしょうか。

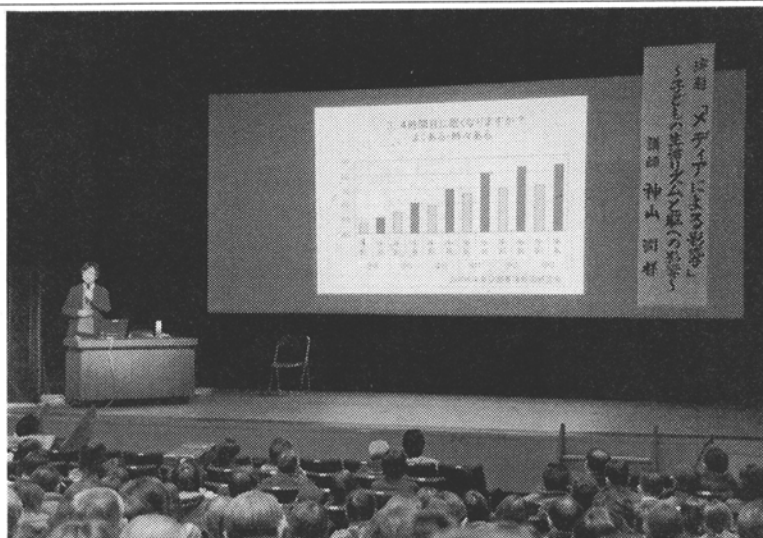


- ありがとうございました。
- スタッフのおかげで、いい講演会でした。ただ、会場が少し寒かったですね。省エネでしょうか。
- 早寝早起きがよい理由を科学的、理論的に教えていただき納得できました。
- 眠りの重要性を知ることができました。体は全部つながっていると感じました。
- 各自ができることを伝えて実践することが大事だと思いました。

健やかな成長に「早起き」

青少年健全育成の集会

青少年健全育成大会 議、市小中学校PTA連合
(市青少年健全育成市民会) 会、柏崎地区高等学校PTA



「子どもとメディア」をテーマにした青少年健全育成大会で、講演を行う神山潤氏

A連合会、柏崎刈羽地区保護司会主催)が十六日、産文会館文化ホールで開かれた。「子どもとメディア」をめぐり、約三百八十人が講演を通し身近な問題を考え合った。席上、青少年の健全育成を目指し、集会宣言を決議した。

集会の冒頭、主催四団体を代表し、市民会議の山崎高美会長は「ノーテレビ・ノーゲーム運動は、テレビやゲームを否定することではない。主体的にメディアと向き合う姿勢を育て、メディアとの接触をコントロールできる力をつけ、長時間接触、メディア漬けの弊害を取り除くことだ。子どもたちを健全な大人に育てるのは、私たち大人の責任」と述べた。

講演は、小児科医で東京

子どもは社会の宝であり、次の世代を担い新しい社会を創(つく)るかけがえのない人材です。それゆえ、青少年を健全なる人間に育てることが、社会の行く末を左右するきわめて重要な大人の役割です。

私たちはこの大会を機に、家庭や学校・地域が連携して青少年の健全育成に取り組めます。

1 家族の絆(きずな)を深めるために「メディア漬け」から子ども

を守り、「生活リズム改善」のために、ノーテレビ・ノーゲーム運動を推進します。そして、メディアに向き合う力を育(はぐく)むメディアリ

を出して、いきいきとした生活を広げていくために数多くの「場」をつくり

テラシー教育(情報を読み解く力の育成)に取り組

「大人が変われば子どもも変わる」をキャッチフ

2 「地域コミュニティ」活動を活性化して「メディア漬け」から抜

以上、全市民一丸とな

北社会保険病院副院長の神山潤氏が「メディアによる影響」子どもの生活リズムと脳への影響」のテーマで語った。いろいろなデータを引用しながら、日本の子どもの睡眠事情から夜更かの弊害を挙げ、睡眠時間の減少は老化促進、脳の情報処理能力の低下などを招き、抗酸化作用のあるメラトニンの分泌を低下させるなどと指摘した。

また、学力上位群は午後九時半までに就寝していると紹介し、過剰なメディア接触による対話の減少なども問題とした。神山氏は「人間は朝の光を浴びて、体内時計をリセットして新しい一日を迎えることが大事」と述べ、子どもの健やかな成長のために「早起き・早寝・朝ごはん、それに朝ウンチ」などと訴えた。

集会宣言で、生活リズムの改善、地域コミュニティ活動の活性化などを決議し、家庭・学校・地域による青少年健全育成の推進を誓い合った。

【訂正】十五日付一面で、青少年健全育成大会の会場が市民プラザであったのは、正しくは産文会館でした。おわびして訂正します。

親がフィルターに

市立教育センターで、大人を対象にした携帯電話講座が開催された。なぜ、教育センターなのかという「子どもに安全に携帯電話を使わせるか」がテーマだからだ。

講師のNTT東日本・滝沢淳さんがまず指摘したのは「親は子どもに居場所確認や連絡目的で携帯電話を与えているが、子どもはメールやインターネットに利用している。この食い違いを親は認識すべき」ということだ。

携帯電話は便利なものだが、一歩間違えると負の側面が強くなる。全国の調査では、出会い系サイトの利用は携帯電話からが7割を占めるという。「子どもの約半数は携帯

電話からインターネットにアクセスしている」ということとあわせて考えると、大変な数字である。重要なのは「親の持ち物(携帯電話)を一時的に子どもに貸しているのであって、ルールを守って使用するのには当然」ということだ。

「親には、子どもにルールを守らせる義務がある。ルールを守らないと被害者や加害者になる恐れがあるからです。インターネット機能のついた携帯電話を子どもに持たせているのは、世界の中で日本だけ。本当にインターネット機能が子どもにとって必要なのか。問題の根源は、こういう高機能のものを子どもに持たせることにある」

「子どもは、みんなが持っているから(携帯電話を)買ってこれと言った。買って与える前に、利用目的をよく話し合ってみよう。もし子ども用に買うにしても、インターネットは必要なし。連絡目的ということなのだから、通話とメールのみで良いはず」

講演では、いかに有害情報に簡単にアクセスできるかが話題となった。知らないのは親だけ、という状態に驚いた参加者もいた。

常識となりつつある「フィルタリング」について、滝沢さんは次のような考え方を示した。

「インターネット上の有害情報を遮断するためにはフィルタリング(閲覧制限)という方法もあるが、万能ではない。やはり、重要なのは親が子どもの行動に目を光らせる、いかにフィルターの役目をするかということ」

「人間フィルタリング」ということなんです。携帯電話は子どもの部屋に持ち込ませない。またパソコンは居間に置き、時々声をかける。子どもが見ている画面を親が気にすることで、フィルターの機能を果たす」

また、学校裏サイトの存在も深刻である。「大人に知られると居場所を変える」のだそうで、正確な実体はつかめていないが、「市内の学校でも存在を確認している」(浦井学校教育課長)とのことだ。

「携帯電話の使用については、学校の参加者からは学校裏サイトについての話は、特に関心が高かった。『学校別、時には学年別にスレッドが立てられ、いじめの温床になっている』のだそうだ。



て、家族でよく話し合わなければならぬことを感じた。『親がメカ音痴なのでつらい。逆に子どもに聞いてみるのも良いコミュニケーションの取り方なのではないかと思つた』などの声が出ていた。子どものフィルタリングになることができるか、親子の絆が問われるということにもなる。

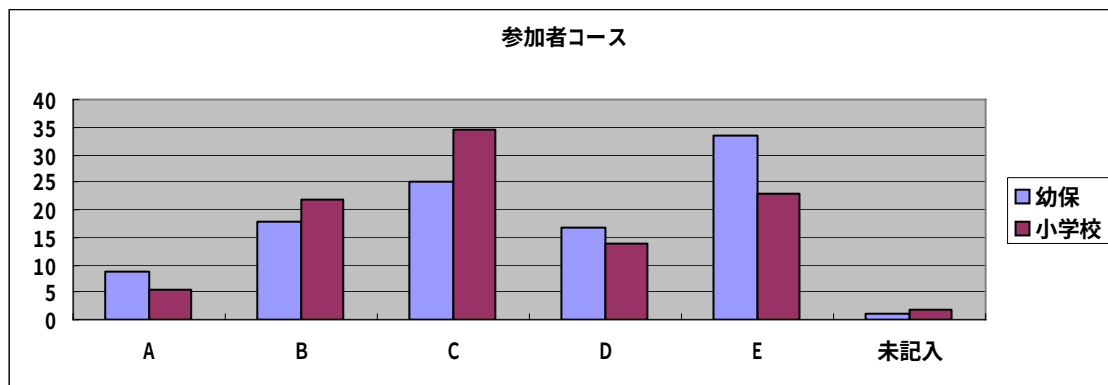
チャレンジカード「ノーテレビ」「ノーゲーム」への挑戦結果の概要

3歳までのメディアとの接触規制が重要であることから、幼保育園や乳幼児の保護者を対象に、「メディア漬けの危機感」の浸透を図りたいと願って、幼保育園・小学校を対象に計画しました。柏崎市と刈羽村の全幼保育園と小学校に実践活動を勧めと事後調査の協力を依頼しました。

提出いただいたチャレンジカードの集計結果については次のグラフのとおりです。

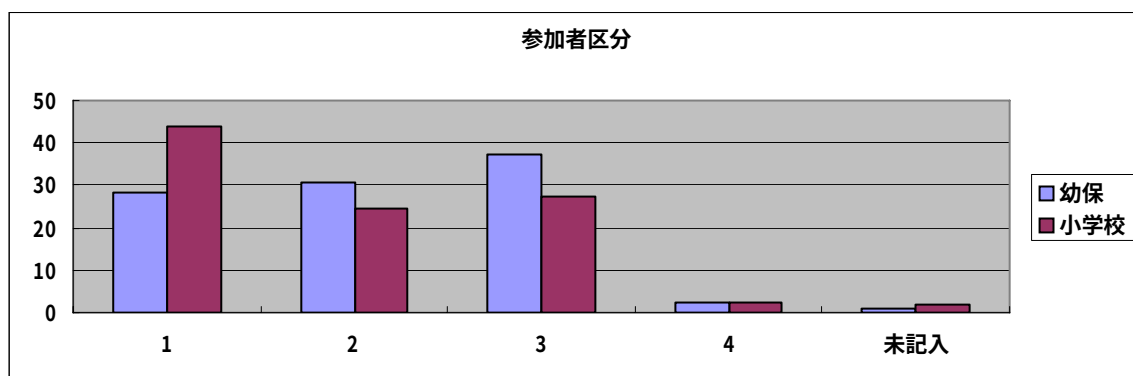
(1) 参加コース

A	B	C	D	E
1日テレビを見ない、ゲームをしない	テレビゲームは1日1時間以内	テレビゲームは9時以降見ない	家族で決めた番組以外見ない	食事中はテレビを消す



(2) 参加区分

1	2	3	4
対象の子どものみ	対象の子どもと親	家族全員	その他



(3) 回収率

	配布数	チャレンジカード	
		回答数	回収率
幼保育園児	3,129	1,692	54.1%
小学生	5,151	3,392	65.9%



園児用のテレビの前垂



うま～く滑れたよ！

ふれあいルームのスキー教室

ふれあいルームでは、特別活動の一環としてスキー教室を2月5日に行い 10 人の子どもたちが参加しました。会場は雪がたっぷりのキューピットバレイスキー場です。少し雪がちらついたり、午後には山頂にガスがかかったりしましたが、よいコンディションの中で思い切り体を動かし、久々の雪のすべりの感触を楽しんでいました。

スノボのグループに 4 人、スキーのグループに 6 人が希望して指導員と一緒に練習しました。余り慣れていない子どもが多く、はじめは不安そうに恐る恐る足を出していましたが、回数を重ねるごとに自信を持ってすべる様子が見られました。自分でしっかりと滑る快感はスキーの楽しさと自信を与えてくれます。中には、スピードをコントロールできず大転倒してレスキュー隊に助けってもらった子どももいて心配しましたが、怪我もなく元気に楽しいスキー教室を終わることができました。普段のふれあいルームでの生活では味わえない楽しさや人とのつながりを経験できた意義あるスキー教室でした。



ふれあいルーム

楽しい演奏に手拍子

エールバンド演奏会



2月28日にふれあいルームでは、毎年恒例のエールバンド演奏会を開きました。多忙な中メンバーの3人が都合を付けてお出でくださり、ハーモニカ、ギター、リコーダー、サキソホンなどの楽器ですばらしい演奏をしていただきました。観客はわずか 10 人余りでも、「太陽」「栄光の架け橋」「世界にひとつの花」「ふるさと」など一生懸命に演奏する姿に、子どもたちは感動していました。



かたい表情の子どもたちだったのですが、心地よいリズムの名曲を聞いたりギャグを交えた楽しいトークを聞いたりしているうちに、次第に打ち解けてノリノリで手拍子を打っていました。また、クイズコーナーとして名曲になっている懐かしいCMソングを2曲演奏してもらいました。皆さん多忙でなかなか練習ができないと言っていましたが、素晴らしい技術と息の合った演奏で子どもたちも感心していました。



所員随想

雨ニモマケズ (理科センターVer.)

科学技術教育班
研究員 植木 厚夫



雨ニモマケズ 風ニモマケズ
杉花粉ニモ 蚊ノ襲撃ニモマケヌ
アキラメノワルイ ココロヲモチ
慾バカリデ
イツモ 理科カタログバカリ ミテイル
一日ニ大量ノ コンビニ食品ヲ摂リ
アラユルコトヲ
ジブンヲカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシ ワカッタツモリニナリ
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
小サナ萱ブキ小屋ニテ 蜂ニ襲ワレ

東ニ 不調ナ 顕微鏡アレバ 行ツテ 看病シテヤリ
西ニ 疲レタ 磁石アレバ 行ツテ コイルノ束ニ 入レ
南ニ 死ニソウナ 地層アレバ
行ツテ 怖ガラナクテモイイト 自分ニ言イ聞カセ
北ニ 喧嘩ヤ訴訟ガアレバ 柱ノカゲカラ 固唾ヲノンデ見守リ
研修会データ消失ノトキハ ナミダヲナガシ
アイディアガ尽キタトキハ オロオロアルキ
ミンナニ「理センノヒトハ オタク ダカラ…」トヨバレ
ホメラレモセズ クニモサレズ
ジブンノ イイトコロダケ ミセタガル
ソウイウジブンヲ ナントカシタイ

教育センターに赴任して、早2年の歳月が過ぎようとしています。平成19年度は波瀾万丈な1年となりましたが、皆様方の御指導、御協力を賜り、ようやく元通りの運営ができるようになってきました。本当にありがとうございます。

新学習指導要領の試行（理科は実質、完全実施？）を目前に控え、身の引き締まる思いで過ごしています。研修会において、また自分の理科に対する姿勢として、

- ・難しいことは易しく
- ・易しいことは楽しく
- ・楽しいことは深く

をモットーに、精進していきたいと考えています。 (イトコロダケ ミセタガル・・・)



知恵＝知識×意欲＋経験

教育研究班
指導主事 中野 博幸



みなさんは人口重心という言葉を知っていますか？

人口重心とは、ある地域について、その地域に住んでいる全ての人が同じ体重を持つと仮定して、その地域を支えることができる点のことです。

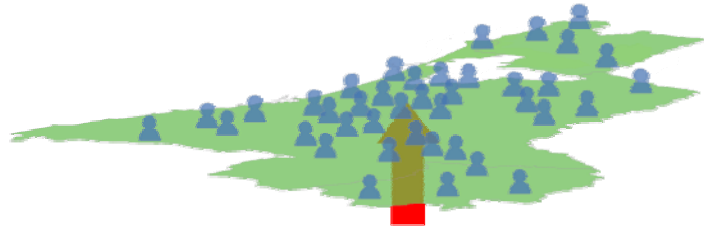
日本の人口重心にあたる地点を、日本のへそと呼んだりします。2005年国勢調査による日本のへそは、岐阜県関市北部（北緯35度36分20秒、東経137度00分27秒）になります。

人口重心が統計データとして利用されるようになったのは昭和40年からで、以来5年ごとの国勢調査をもとに計算されています。統計を取り始めてから、一貫して東あるいは東南東方向に移動していて、日本の人口分布が東京を中心とした東日本への集中を続けてきていることがわかります。日本全国の都道府県及び市町村のデータは、総務省統計局のホームページからエクセルファイル形式でダウンロードすることができます。

そうすると、柏崎市のへそは何処なんだろう？という疑問が湧いてきませんか？

北緯37度21分50秒、東経138度34分59秒が柏崎市のへそです。いったい何処？

それは、北陸自動車道柏崎インターそばの焼肉のサカイの裏あたりになることがわかりました。



柏崎七街道まちづくり会議と柏崎観光ナビ推進協議会によるイベント「柏崎のお宝を探せ！」が平成19年12月23日～平成20年1月25日まで行われました。柏崎の新しい旅を提案するために、地域の皆さんと一緒に地域のお宝を掘り起こしましょうというものです。

これに、「柏崎のへそ」を応募したところ、見事に入選しまして、柏崎産の新米コシヒカリ5kgをいただきました。食べ盛りの中高生の息子を養う身としては、大変に有難い景品でした。ごちそうさまです。

さて、柏崎のへそは、焼肉のサカイの裏だよと聞いて、「ふーん、だから？」と思うでしょうか、それとも「へえー、どうやって求めるの？」「長岡市のへそも分かるの？」と思うでしょうか。

私は人口重心について知っていたので、コシヒカリ5kgという食料をゲットすることができましたが、通常、〇〇市のへそを知っていても生きていくうえで、得になることはなさそうです。

では、得にならなかったり、役に立たなかったりすることは、覚える必要もやってみる価値もないのでしょうか。私は違うと思います。

先日、知恵とは、知識×意欲＋経験という式で表されるという話を聞きました。

知識がたくさんあっても、意欲が大きくなければ、知恵の値は決して大きくなりません。負の経験が知恵の値を小さくするとも言えそうです。

私は、昨年7月の中越沖地震に遭い、知恵の大切さを痛感しました。

子どもたちがよい知恵を身に付けるには、知識の量と大きな意欲、そして、良い体験や経験が必要です。学校教育で何ができるのか、新学習指導要領の改訂に合わせて、考えていかななくてはならない課題だと思います。

そのためには、何よりも自分自身がいろいろな事柄に興味を持ち続けることが、大切だと思うのです。

3月の予定表

柏崎市立教育センター

日曜	研 修 ・ センター行事・会 議	学 校 訪 問	出 張 ・ その他関係事業
1 土	研・キャリア教育研修「いきいきゲーム」9:00～		
2 日			
3 月	所内会議 13:00～		就学指導委員会（小林：分館）15:30～
4 火			
5 水		二田小学校訪問（赤）15:30～	
6 木		門出小学校訪問（滝）15:30～ 内郷小学校訪問（赤）15:30～	ガリレイ3月号発行
7 金	ふ・ふれあいルーム保護者会 18:30～		出・県地区センター連絡協議会（植木：新潟） *退職校長会（第一研修室）13:30～
8 土			
9 日			
10 月			
11 火		西山中学校訪問（滝）10:00～ 高柳中学校訪問（赤）10:00～ 高柳小学校訪問（滝）15:30～	
12 水		北条中学校訪問（滝）10:00～	
13 木	科・第二中学校総合要請授業（植木）		情報セキュリティ委員会（多目的研修室）15:00～
14 金			出・上越地区センター総会（植木）
15 土			
16 日			
17 月	所内会議 13:00～		
18 火			
19 水			出・長期研修報告会（植木：新潟）
20 木			
21 金	ふ・ふれあいルーム通級終了日		
22 土			
23 日			
24 月			
25 火			定例教育委員会（所長・副所長）
26 水			
27 木			
28 金			第一中学校リーダー研修（一中：小林）
29 土			
30 日			
31 月			

☆今月の催し☆

研＝教育研究班 科＝科学技術教育班 ラ＝視聴覚タイプラー 相＝教育相談班
ふ＝ふれあいルーム 訪＝学校訪問 出＝出張
（滝）＝滝澤学校訪問相談員 （赤）＝赤川学校訪問相談員
*＝センター施設貸し出し

2008年4月

1	火	辞令交付式		☆4月の催し☆ 春の植物観察会（日時・会場調整中） 参加をお待ちしております！！
2	水			
3	木			
4	金			
5	土			

教育センター事業の参加・利用状況(2月)

	研修講座・事業名		2月の 利用数	2月末までの 利用合計数	18年度の 利用合計数
教育 研究 班	専門研修講座　＊		1回	40回	56回
			29人	1365人	1, 810人
	学校の要請研修会		0回	1回	5回
			0人	1人	25人
	調査研究員会, 教科研修員会		0回	11回	10回
			0人	46人	40人
	教育情報化研修講座　＊		3回	41回	41回
			20人	277人	529人
	情報教育主事の要請支援等		13回	101回	98回
			133人	955人	865人
	その他の相談・利用・参加数		3回	39回	38回
3人			48人	67人	
教科書センター利用閲覧数		1人	252人	413人	
科学 技術 教育 班	理科研修講座　＊		1回	16回	12回
			5人	133人	173人
	学校等の要請研修		0回	20回	15回
			0人	766人	365人
	地域の自然研修・観察会		0回	8回	9回
			0人	367人	586人
	科学教育振興事業(科学の祭典・科学教室等)		0人	4600人	10, 140人
	理科教育の相談・支援		10件	252件	289件
	理科教材・物品の貸出		4件	112件	147件
(教職員研修の合計)		5人	459人	799人	
教育 相談 班	カウンセリングルーム来室相談	新規	16件	210件	209件
		継続	61件	580件	645件
	学校訪問相談		19回	131回	140回
	家庭訪問相談		12回	35回	118回
			4人	13人	38人
	電話相談		2件	31件	40件
	ソーシャルスキルトレーニング		6回	42回	32回
			36人	218人	187人
	ふれあいルーム通級人数	小学生	1人	14人	12人
		中学生	19人	162人	199人
	ふれあいルーム通級日数		20日	178日	193日
同上　学校復帰数(部分復帰を含む)		1人	15人	17人	
視 聴 覚 ラ イ ブ ラ リ ー	16ミリフィルムの貸し出し		36本	109本	166本
	ビデオテープ・DVDの貸し出し		21本	346本	506本
	視聴覚機材の貸し出し		55台	639台	619台
	編集, 借用, 相談等の来室者		94人	814人	1, 160人
	機器操作研修会		4人	56人	38人
	親子映写会・児童クラブ映写会		0人	100人	0人
	教育団体, P T A, 市民等の利用		353人	3745人	3, 304人
教育センターにおける教職員研修講座 （＊印の合計）		5回	97回	109回	
		54人	1775人	2, 512人	
教育センター事業の参加・利用総数			935	16,379	22,809

ガリレオ・ガリレイはイタリアの天文学者で近代科学の父と言われ、分析と統合との経験的・実証的方法を用いる近代科学の端緒を開いた人です。

これまで、新しい教育を創り出す私たちにも、ガリレオ・ガリレイのごときたゆまざる検証と気概が必要であるという趣旨から、「がりれお」を発行してきました。この精神を引き継ぎ、平成 17 年度から「GALILEI」という名称で、教育・育成センターの情報を広く皆様に発信しています。



945-0833 新潟県柏崎市若葉町 2—31

柏崎市立教育センター

TEL 0257-23-4591
FAX 0257-23-4610

柏崎市青少年育成センター

TEL 0257-20-7601
FAX 0257-23-4610